

旭市地域公共交通計画（素案）に関する意見と市の考え方（パブリックコメント）

No.	意見要旨	市の考え方
市民のニーズ把握について		
1	・市民アンケートの回収率 34%はかなり低い、なぜこの低い数字でアンケート終了したのか。せめて過半数、50%に近い回収率は必要かと思う。 ・特に、これから市政の中心となる 20～30 代の回答割合が 13.5%と低い数字になっている。 ・この回答率をもって計画を進めても、市民の声が反映しているといえるのか。	・回収率 34%は特別低い数値ではなく、他の自治体における同様のアンケート調査においても 30～40%前後の回収率となっており、統計学上も問題なく全市の傾向として分析できる回答数を獲得できています。 ・また、公共交通に関するアンケート調査では、ご高齢の方の回答が多くなる傾向にあるため、相対的に若年層の回答率は低くなっています。 ・そこで、若年層の意見を把握することを目的とし、地域別意見交換会にて子育て世代や中学生の方々にご協力いただき、ご意見をいただいたものを計画に反映しています。
2	・計画素案の 60 ページに関連事業者の意見が載っているが、実際に地域の中で困っている高齢者や障害者、子ども達それぞれの代表の意見があると良かったと思う。	・地域の方々の意見につきましては、計画素案の 52～56 ページに地域別意見交換会の結果を記載しております。 ・この意見交換会では、各地域の各世代の方々に参加してもらい、日常生活における移動の困りごとやその解決方法、解決方法の中で地域の方々ができることを考え、意見交換をしていただきました。

No.	意見要旨	市の考え方
鉄道について		
3	・ＪＲ東日本へ対して要望活動を行っているが、先方からの返事はどのようなものか。	・ＪＲ東日本千葉支社への主な要望活動としては、総武本線の「通勤・通学時間帯の普通列車の増発」と、「終電時刻の繰り下げ」を要望しています。 ・ＪＲ東日本千葉支社からの回答としては、普通列車の増発については、「今後さらなる人口減少予測等もある中で、鉄道事業にとって非常に厳しい環境であることを踏まえると、公共交通事業者として安定的かつ持続的な事業運営を行うためには、効率的な輸送体系への見直し等の検討も必要であることをご理解いただきたい」とのことでした。 ・また、終電時刻の繰り下げについては、「夜間のメンテナンスの時間や要員の不足、乗務員の休養時間の確保の課題があるため厳しい状況である」とのことでした。 ・上記のとおり、厳しい回答内容となっていますが、市としては今後も要望活動を続けていきたいと考えています。
4	・時間帯問わず列車の本数が少ないので、増やしてほしい。 ・旭市だけで日常に必要なことは完結せず、千葉駅まで行かないとメガバンクもないし、ファッションの買い物もできない。	・現在の運行本数についてのＪＲ東日本千葉支社の見解は、「利用状況に応じた時間設定により運行している」とのことでした。 ・運行本数の増便は計画素案 45、46 ページの鉄道利用者アンケートにおいても要望としてありますが、昨今の人口減少や新型コロナウイルス感染症の影響によるライフスタイルの変化等により公共交通事業者を取り巻く現状は極めて厳しい状況にあります。 ・このような状況の中、運行本数の減便とならないよう計画素案 70 ページ記載の実施事業「ＪＲ総武本線の利便性向上」として維持・拡充に向けた事業を実施していきたいと考えております。

No.	意見要旨	市の考え方
5	・飯岡駅しか利用したことしかないが、電車の本数が少ない割に時間をつぶせるようなコンビニや本屋が駅前にないため、駅前を活性化させてほしい。 ・駅のトイレが暗く汚い雰囲気、女性一人で使うには怖い。 ・駅まで車で送迎してもらう人がほとんどなのに、大きい駐車場やロータリーがないのは不便。	・今後のまちづくりのご意見として参考にさせていただきます。 ・駅のトイレについても、所管課と情報共有します。
6	・駅前に低価格帯の有料駐車場を作る。 ・駅前の駐輪場を整備する。駅の入口に近い所などに、有料の駐輪場を設ける。	・今後のまちづくりのご意見として参考にさせていただきます。 ・駅前の駐輪場については、市内各駅前に駐輪場を整備しております。また、旭駅前については、有料の駐輪場としての民間の自転車預かり所があります。
バスについて		
7	・コミュニティバスについて、自分の家の近くにバス停があることを最近まで知らなかったが、運行本数が少なく、また、旭中央病院やイオンタウン、道の駅、市役所、列車の駅に行くくらいしか利用目的がないのに往復 400 円は高く感じる。 ・片道 100 円だと安すぎるかもしれないが、往復券の制度を作って「往復利用 200 円」で検討してほしい。	・以前は片道 100 円で運行をしていましたが、利用者減少に伴う運賃収入の減少・利用者負担の適正化から運賃改定を検討し、平成 29 年度の市民アンケート調査及びコミュニティバス利用者アンケート調査で +100 円以上の増額を許容する意見が半数以上を占めたことから、令和 2 年 4 月より増額に至った経緯があります。
8	・コミュニティバスについて、交通系 IC カードが使えないことに不便さを感じる。	・交通系 IC カード決済システムの導入については、導入に莫大なコストがかかるため、計画素案 81 ページ記載の実施事業「低コストで導入しやすいキャッシュレス決済の導入」について検討したいと考えています。

No.	意見要旨	市の考え方
9	・自家用車以外の移動手段がないから免許返納したくてもできない高齢者の事情は理解できるが、危ない運転の方が多く、車通りの多い道に子供を連れて歩くとき怖い思いをしている。 ・高齢者マークの自動車を多く見る。免許返納してもらえるよう、コミュニティバスの状況改善をお願いする。	・高齢者の運転免許返納促進については、計画素案 17 ページに記載のとおり、公共交通利用運賃の割引となる優遇措置を行っており、計画素案 67 ページ記載の計画目標に対する評価指標でも「年間運転免許返納者数」を現状の 5 割増とする目標を掲げています。 ・この目標を達成できるよう、コミュニティバスの状況改善に限らず、デマンド交通「きらりんタクシー」のサービス拡充や、免許返納優遇制度の周知等に取り組んでまいりたいと考えます。
10	・市外、県外の人が旭市に来やすくなるため、鉄道、高速バス（特に下り）とバスとの乗継を良くする。	・計画素案 71 ページ記載の実施事業「路線バスの鉄道ダイヤに合わせた運行ダイヤの調整及び維持」や 73 ページ記載の実施事業「コミュニティバスの利便性向上」において、乗継の利便性向上を検討したいと考えます。
11	・高速バスのバス停間の途中下車を可能にする。	・計画素案 72 ページ記載の実施事業として、高速バスの一般乗降化について、高速バス事業者と研究していきたいと考えます。
12	・バスの待合環境の整備。バス停が雑草に埋もれているところもある。	・バスの待合環境につきましては、計画素案 70、75 ページ記載の実施事業として、交通結節点や利用者の多い主要なバス停等の待合環境の整備を検討してまいります。 ・バス停が雑草に埋もれていることにつきましては、随時道路脇等の草刈りを実施しているところですが、見つけた際にはご連絡いただければ対応し、快適にバスをご利用できるよう努めてまいります。
13	・千葉駅、幕張、酒々井アウトレット、成田空港、ディズニーランドなどへの高速バスを増やしてほしい。	・高速バスの増便につきましては、多くの要望があれば、高速バス事業者と検討していきたいと考えます。

No.	意見要旨	市の考え方
デマンド交通について		
14	・デマンド交通というネーミングがよくない。デマンドの意味がお年寄りにぱっと理解できるとは思えない。 ・デマンド交通の概要、利用方法、料金の周知を行ってはいかがか。	・デマンド交通は市民の方に認知されやすいよう「きらりんタクシー」を愛称としています。 ・市の広報、ホームページへ掲載および、デマンド交通の概要、利用方法等を記載した総合公共交通マップを毎年度発行し、区の全戸配布や各公共施設等へ配布や、関係各課と連携し情報周知を図っております。 ・今後は市民活動団体への出前講座等も実施し、認知度向上を図る予定です。
15	・デマンド交通のエリア分けの境目が分かりにくい。	・デマンド交通のエリア分けにつきましては、各エリアの人口や走行距離等を考慮し、旭南地区（旧旭市の国道 126 号より南側）、干潟・旭北地区（旧干潟町と旧旭市の国道 126 号より北側）、海上・飯岡地区（旧海上町と旧飯岡町）の 3 つのエリアに分けています。
16	・デマンド交通の運行エリアを越える場合は+100 円など加算すれば運行できるようにする。	・エリアを越える運行については、計画素案 74 ページ記載の実施事業「デマンド交通の利便性向上」の中で検討してまいります。
17	・どの地区でもエリアの問題が出ていると思うので、医療機関や商業施設についてはエリアを越えての利用が出来ると良い。	
18	・デマンド交通について、登録していない人（市外、県外を含む）も+100 円など加算して、利用できるようにする。	・利用者につきましては、基本的には市民の皆様の移動手段として活用していきたいと考えていますが、利便性向上のため「登録者と同乗する場合は未登録者も利用可能」などについて検討していきたいと考えます。

No.	意見要旨	市の考え方
19	・ デマンド交通の予約について、ネット予約や、アプリで予約できると利便性が上がると思う。(同様意見 1 件)	・ アプリを活用した予約につきましては、計画素案 74 ページ記載の実施事業「デマンド交通の利便性向上」の中で、優先度を見極めながら段階的に検討してまいります。
その他実施事業について		
20	・ 実施事業「地域住民主体の取り組みの研究」について、コミュニティバスが運行していない地区や時間帯が合わなく利用できない人にとって有効であると思われ、地域住民の互助の取組としてとても魅力的であるため、個人や団体が導入しやすいように、旭市として積極的に促進してもらいたい。	・ 事業の研究を続けながら、社会状況の変化等で、実現の可能性が出てきた際には、事業の実施を検討したいと考えております。
21	・ 昨年、イオンタウン旭がオープンした時に「m o b i (モビ)」が導入されるとテレビで見た。民間の取組だと思うが、とても魅力的な構想であったため期待していたが、開始予定としていた時期を過ぎたのに未だに開始されないがどうなったのか。(同様意見 1 件)	・ 「m o b i」は、半径 2 km 程度のエリア内に設定された乗降場所であれば、月額 5, 000 円程度の定額料金で乗り放題で利用することができる、新たなタクシー型移動サービスです。 ・ 令和 4 年 4 月のイオンタウン旭オープン時に、「m o b i」の展示が行われ、旭市内での実施も検討していると発表されていましたが、その時点では、まだ開始の目途はついていない状況であったと認識しています。 ・ 「m o b i」は、利用者の利用の仕方によっては低料金で利用できる新たな移動手段となる一方、一般タクシー事業をはじめとする既存の地域公共交通の衰退を招く懸念もあります。 ・ また、「m o b i」の運行主体は地域のタクシー事業者が担うこととなりますが、「m o b i」単体での経営が成り立つかも不透明であることから、導入に当たっては慎重な検討が必要となります。 ・ よって、旭市内においては、現状では導入の見通しは立っていないものと認識しています。

※上記のほか、生涯活躍のまち・みらいあさひ（イオンタウン旭）についての意見をいただきました。

地域公共交通計画策定とは直接関わらないため、回答は差し控えますが、いただいた意見は関係者と共有し今後の参考とさせていただきます。